



# キハダ

## 中西部太平洋

主な漁業と漁期

まき網(冷凍):周年(未成魚・成魚)  
はえ縄(生鮮):周年(成魚)

## 生態

昔は缶詰や魚肉ソーセージの原料でしたが、現在では刺身や寿司ネタなどの生食用にも供給されています。

### ●分布・回遊

熱帯域から温帯域にかけて広く分布しています。夏季には南北両緯度40° 近くまで分布しますが、冬季には南北両緯度30° 以上に分布することは稀です。

若齢の小型魚は、同じ大きさのメバチやカツオと群を作ることがあり、主に表層に分布します。成長すると単独群れとなり、より深い層にも分布するようになります。

### ●産卵期・産卵場

水温24℃以上の水域で、ほぼ周年行われていますが、熱帯域における産卵盛期は西部太平洋で12～翌年1月、中央太平洋で4～5月と報告されています。

### ●成長・成熟

成長は1歳で尾叉長60cm程度、2歳で110cm程度、3歳で130cm程度に達します。7～10年と考えられています。

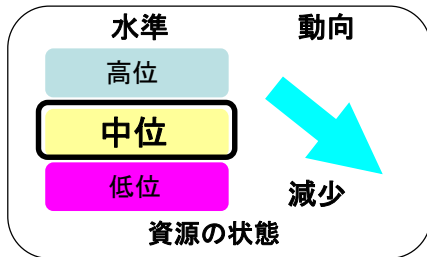
成熟は雌の生物学的最小形は体長60cm程度ですが、50%成熟するのは105cm程度と報告されています。



キハダ幼魚(成魚と異なり背鰭と尻鰭は小さい)

## 漁業・資源動向

### 【資源】



- ・ 漁獲がないと仮定して推定した産卵資源量に対する、実際の産卵資源量の比は、最近年を除いて減少傾向にあります。また、漁獲死亡は2000年代半ばまで増加傾向にあり、その後も高く推移しています。
- ・ 2015年から2018年の平均産卵資源量のレベルは限界管理基準値を上回っており、平均漁獲死亡は限界管理基準値を下回っていると推定されました。
- ・ これらのことから、3年に一度実施される最新の資源評価(2020年)では、資源の水準は中位、動向は減少と評価され、資源は乱獲状態の可能性が低く、漁獲努力が過剰でない可能性が高いと報告されています。

《国の資源評価へのリンクはこちら》

要約 [https://kokushi.fra.go.jp/R04/R04\\_14S\\_YFT-WCPO.pdf](https://kokushi.fra.go.jp/R04/R04_14S_YFT-WCPO.pdf)

詳細 [https://kokushi.fra.go.jp/R04/R04\\_14\\_YFT-WCPO.pdf](https://kokushi.fra.go.jp/R04/R04_14_YFT-WCPO.pdf)

### 【漁業】

- ・ 2007年以降、中西部太平洋では年間51.8～77.8万トン、日本では年間4.2～6.8万トンの漁獲量で推移しています(図上)。また、静岡県への水揚量は、2.1～3.7万トンで推移しています(図下)。
- ・ 主に遠洋のまき網で漁獲されています。

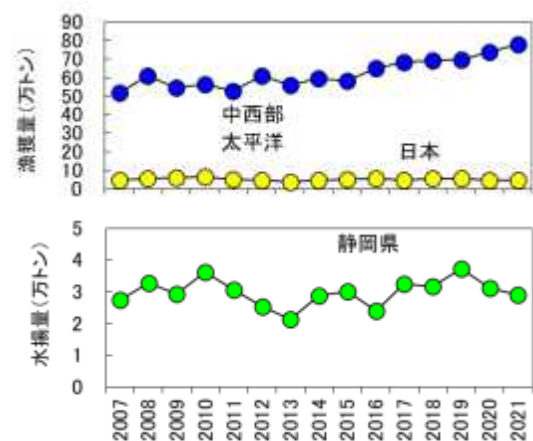


図 中西部太平洋と日本のキハダ漁獲量の推移(上)と静岡県のキハダ水揚量の推移(下)

担当者の一言: 夏季に静岡県沿岸に小型個体が来遊し、地域によって「キメジ」「キメ」「チャッパ」などと呼ばれます。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科

054-627-1817